

ミカワトウヒレン *Saussurea nipponica* Miq. var.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 17。おそらく本地域に固有の、オオダイトウヒレン群の一型である。個体数が少なく、しかも被陰や食害により衰退している。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 35~110cm、翼はない。根出葉は通常花時に枯れずに残り、長さ 8~17cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 9~15cm、幅 7.5~11cm、先端は短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には粗い鋸歯があり、中央部は通常大きく湾入するが、時にほとんど湾入しないこともある。花期は 9~10 月、頭花は 2~10 個が茎の先端に散房状につき、紅紫色、総苞は長さ 12~15mm、総苞片は 5~6 列に並び、先端は細く尖って開出または反曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 39926, 1992-10-10)、3 東栄 (小林 39924, 1992-10-10)、7 設楽東部 (小林 53406, 1994-8-27)。西：5 稲武 (芹沢 83533, 2008-10-11)、19 旭 (小林 48288, 1993-10-2)。

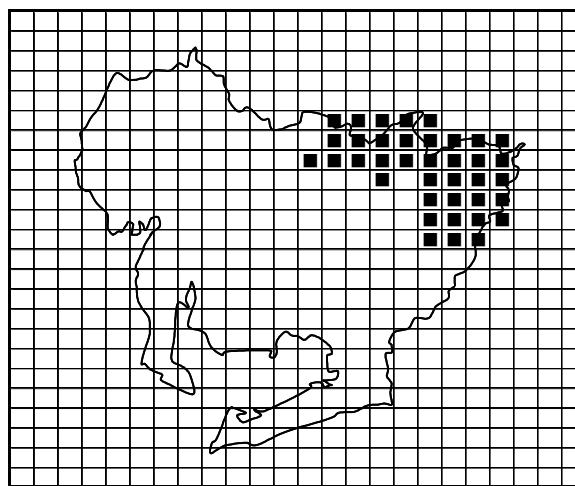
【国内の分布】

おそらく本地域に固有である。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。小林 (2006) は「尾根筋などやや乾燥した林内」と述べているが、確認できた 4 カ所はいずれも沢沿いのやや湿潤な場所であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所でも上層木に被陰されて衰退しているだけでなく、シカによる食害が著しく、2010 年頃には完全な状態の株はほとんど見られなくなっていた。現在ではほとんどの場所で、すでに絶滅していると思われる。個体数と集団数は推定値だが、これでもまだ過大評価かもしれない。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。防護策の設置も検討されるべきである。

【特記事項】

従来オオダイトウヒレン (大原 1971) とされたり、タカオヒゴタイ (小林 2006) とされたりしてきた植物である。形態的には両者の中間型で、葉にバイオリン状の湾入がある点はタカオヒゴタイに合致し、花序群の形態は散房状でオオダイトウヒレンに似る。詳細な検討が必要だが、現状では良好な資料を採取することもできない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.73, 210. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.125. 名古屋営林局, 名古屋.